

北海道・東北漁船漁業活性化シンポジウム開催

北部太平洋巻網漁業の直面する課題

惣宝 水産専務 福島全良氏

単船・省力化で現状に合わせる

許可の一再更新のため、経営の合理化や漁法に、転換、トン数の変更改善を考えてきた。現在の激しい環境は、イワシの水揚げが四百五十万トンの時、当時の巻網漁業者が

先を考えず設備投資した性も考え、消費者の要求に不良債権化に感じた質で漁獲できるかを考えなければならぬ。外国漁船は乗員に個室を与えているが、日本は四人部屋。高コスト体質のうえに漁獲低迷で質の低下に悩んでいる。科学的にも能力が上がる指せる。

現在のような船団方式では限界だ。四隻一か統は、大漁の魚をピストン輸送するための方式。資源が少なくてマツチしないが、船団総トン数制を行政はやらせてくれない。

高コスト体質から脱却するためには単船操業が必要だ。試験的に単船操業している北勝丸は、運搬船一隻を付け、生と冷凍を扱って収支が向上し始めた。さらなる省力化には揚網作業にアームウインチを使い、魚処理場をもつことが必要である。カツオマグロも北部太平洋では、キハタ、バチを四ツ割リロイン加工して、高付加価値化も目指せる。



従来、規制は漁獲努力量制限のためだったが、これからは安全性、居住

初期投資もかかるが、業界を奮い立たせる事業にしたい。